

# 「尊」

あ つじ てつ じ  
阿辻 哲次 京都大学教授

卒業式や入学式の季節である。

私の勤める大学にも、在学中ろくに勉強しなかつたくせに、いざ卒業となると、「学生時代にもっともっと勉強しておけばよかったと思います」などと口にする学生がたくさんいる。それならいつぞ留年して、もう少し勉強したらどうだい、と誘ってやるのだが、それはやはり困るらしい。

私が子どもころの学校の卒業式では、「仰げば尊し」を合唱するのが恒例だった。しかし最近はこの歌を耳にすることがほとんどない。聞けば、歌詞の内容が封建的・反動的であるとの意見があつて、式典での合唱に抵抗があるらしい。「仰げば尊し、我が師の恩」のどこが「反動的」なのか、私にはまったく理解できないが、しかし仰ぐに足るだけの「尊い師」が少なくなっている現状では、この歌を歌ってもむなしく響くだけかもしれない。

「尊」という漢字は、酒の入った壺を両手で持ち、上に捧げようとしていた形を示す。この酒は、神様にお供えする神聖な酒である。そこから「尊」という字に、「うやまつ」とか、「うつ」といという意味が生まれてきた。

古代の人々は、恵みを与えてくれる神に聖なる酒を捧げて、畏敬の念を表した。現在の学生も、せめて学校を巣立つ時くらいは、さまざまな知識を与えてくれた先生に対する感謝の気持ちを抱いてほしいものである。